各　位

2026年11月11日

会社名　　住友大阪セメント株式会社
代表者名　　取締役社長　諸橋　央典
（コード番号　5232　東証プライム市場）
問合せ先　　企画部長　　戎井 昌彦
（TEL　03-6370-2725）

2027年3月期第2四半期（中間期）業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2026年5月13日に公表いたしました2027年3月期第2四半期（中間期）の業績予想と実績との間に差異が生じましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、2027年3月期の通期業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1．2027年3月期第2四半期（中間期）業績予想と実績との差異（2026年4月1日～2026年9月30日）

（1）連結

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	111,000	4,500	4,300	3,100	32.60
今回実績（B）	115,105	6,147	6,393	5,422	57.01
増減額（B-A）	4,105	1,647	2,093	2,322	―
増減率（%）	3.7	36.6	48.7	74.9	―
（ご参考）前期実績（2026年3月期第2四半期）	105,772	4,119	4,233	5,590	57.49

（2）個別

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	90,100	3,200	4,200	3,000	31.55
今回実績（B）	94,242	4,033	5,936	5,877	61.80
増減額（B-A）	4,142	833	1,736	2,877	―
増減率（%）	4.6	26.0	41.3	95.9	―
（ご参考）前期実績（2026年3月期第2四半期）	85,121	1,453	2,910	5,314	54.66

（注）当社は、2026年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。1株当たり中間純利益については、前連結会計年度もしくは前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

（3）差異の理由

セメント事業におけるコスト削減などによる営業利益の増加、受取配当金の増加に加えて、政策保有株式の売却を進めたことにより売却益の計上が増加したことなどから、従来予想に比べ営業利益・経常利益・中間純利益とも増加いたしました。

2．2027年3月期通期業績予想の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

（1）連結

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	234,500	15,000	14,500	10,000	105.18
今回修正予想（B）	241,000	15,000	14,800	11,500	122.00
増減額（B-A）	6,500	－	300	1,500	－
増減率（%）	2.8	－	2.1	15.0	－
（ご参考）前期実績（2026年3月期通期）	223,686	13,648	14,405	11,214	116.53

（2）個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	188,800	9,700	10,200	7,000	73.63
今回修正予想（B）	194,200	9,200	10,400	9,000	95.49
増減額（B-A）	5,400	△ 500	200	2,000	－
増減率（%）	2.9	△ 5.2	2.0	28.6	－
（ご参考）前期実績（2026年3月期通期）	179,093	6,987	9,114	8,463	87.94

（注）当社は、2026年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益については、前連結会計年度もしくは前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

（3）修正の理由

上記1に記載のとおり、第2四半期（中間期）の営業利益はセメント事業の営業利益の増加などにより従来予想を上回りました。一方で、下半期（2026年10月～2027年3月）は、半導体製造装置向け電子材料の販売数量増加などにより高機能品事業の営業利益は増加が見込まれるものの、セメント事業においてセメント国内需要の減少、エネルギーコストのアップに加え、諸資材のコストアップに伴う原材料費等の悪化が見込まれることなどから、通期の連結営業利益は従来予想を据え置くこととし、個別営業利益は従来予想から下方修正することといたしました。

当期純利益は、政策保有株式の売却益を計上することなどから、従来予想を上回る見込みとなりました。

（注）上記業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上